

学校力を高めるための校内研修

平成24年度名寄市教育改善プロジェクト委員会
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

今、各学校には学校力向上に直結し、個々の学校教育目標の達成に資する校内研修が求められています。また、名寄市には、初任者や教員になって2校目の教職員が多く勤務しており、そうした方々を含めた全職員が研修の目的や意義、研究の進め方などについて理解し、各学校の校内研修や市内同種、異校種間の共同による研修等への理解を進めることが大切です。

名寄市教育改善プロジェクト委員会「校内研修の充実に関する研究グループ」では、教職員の資質向上、ひいては学校力の向上に向け、今年度から平成26年度まで校内研修、特に授業改善につながる「校内研修の在り方」や「学校間の連携」を柱に活動を進めます。

今回、校内研修を充実させるための資料として、校内研究の意義や数校の事例を紹介したリーフレットを作成しました。校内研修等でご活用ください。

学校力とは？

◇学校の教育力◇

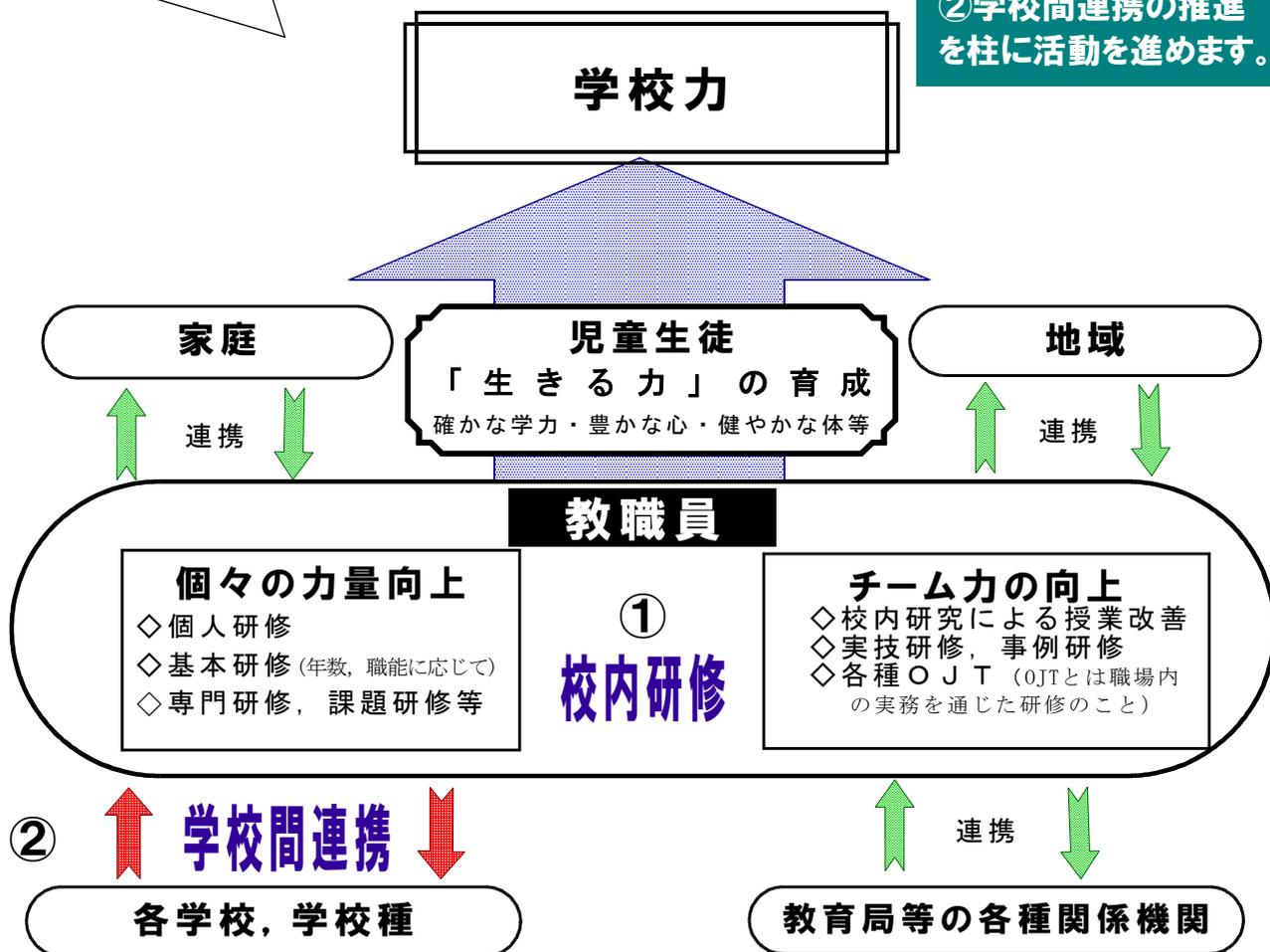
- 学校が組織として機能する力
- 家庭や地域社会の支援によって生まれる学校の総合化された力

「新しい時代の義務教育を創造する」H17 中教審答申

学校力を支えるもの、活動の柱

下図の

- ①校内研修の充実
 - ②学校間連携の推進
- を柱に活動を進めます。



校内研修と校内研究

校内研修

- ①教職全般の専門的な知識
- ②各教科等の指導
- ③生徒指導・教育相談
- ④教育研究の推進
- ⑤教師の資質向上 など

子ども一人一人がそれぞれの個性や能力を伸ばして、心豊かにたくましく生きるための基礎を培うことは学校教育の重要な役割です。そのために教師は、絶えず研究と修養に努め、実践的な指導力を発揮できるようにすることが大切です。

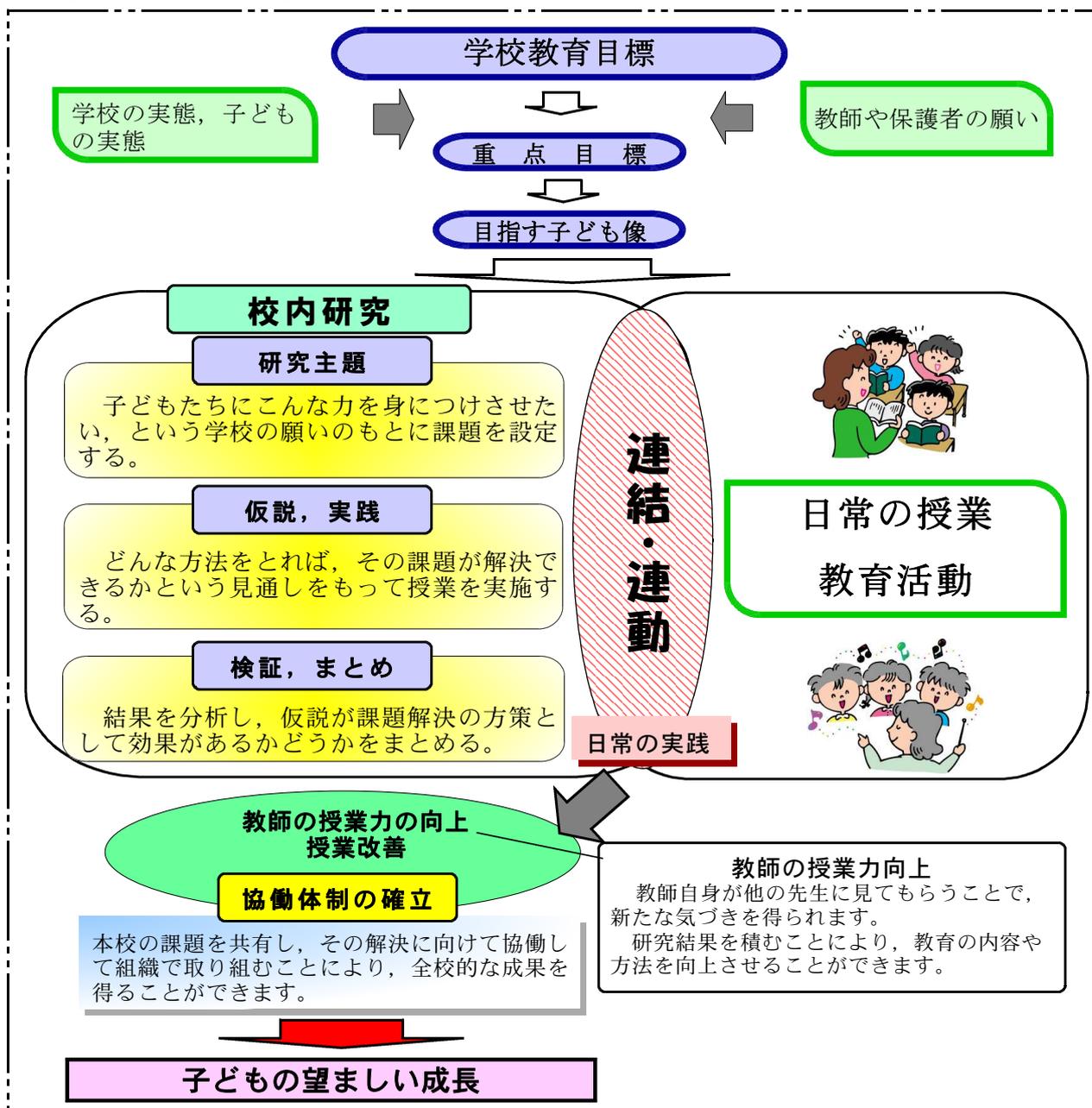
校内研究

学校の実践上の教育課題を取り上げて研究主題を設定し、教師が共同で取り組む研究活動



校内研究の意義

学校の教育目標の具現化



校内研究班各学校の取組の紹介

名寄市内各校では、教職員の資質向上、授業力向上のために様々な校内研究の取組を進めています。ここでは、当グループ校内研修班6校の取組を紹介いたします。

(1) 名寄南小学校

【研究主題の設定】

主体的に学び、考える楽しさとわかる喜びを実感する子の育成
～問題解決学習を通して～

【設定理由】

本校では、昨年度まで4年計画で国語科の「読むこと」の指導を通して取り組んできた。

<成果>○課題解決しようと意欲的になり、自分の考えを伝えることや話し合おうとする基盤ができてきた。

○ペアやグループ交流場面での交流の仕方を工夫することで、課題に対する見方や考え方が広がり、読みを深めることができるようになった。

<課題>▲子どもの考えを発表させ、全体の交流場面で練り合わせていくためには、話し合う時間を確保することが必要であった。

▲全体で練り合うための発問や板書などの工夫が不足していたため、教師が児童の多様な考えをまとめ、収束することが難しかった。

以上の成果と課題、客観的なデータをふまえ、今年度は、**算数科を窓口**にして子どもの育ちを促し、教師の授業力向上と日常の授業改善（日常に生かせる研修）を図る研修を進めることとした。

仮説

- ①ねらいを明確にした課題提示や教材を工夫することで、子どもたちが主体的に学ぶことができるであろう。
- ②思考するための手立てを充実することで、子どもが楽しく考えることができるであろう。
- ③評価の工夫と振り返りの充実を図ることで、子どもがわかる喜びを感じることができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年 年 次 度	<ol style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②模擬授業を通して研究内容のイメージを共有化 ③授業交流 ④授業研究を通じた仮説の検証 ⑤1年次研究の成果の分析、まとめ ⑥次年度の方向を検討 <p style="text-align: center;"><共有化></p>	<ol style="list-style-type: none"> ①〈研究仮説1〉 ・指導計画の工夫 ・教材・教具の工夫 ②〈研究仮説2〉 ・ノート指導 ・机間指導 ③〈研究仮説3〉 ・レディネステストと事後テストとの比較・検討 <p>〔5年分数の大きさとたし算ひき算 4年面積 →〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①複数の教科書を使っでの問題の検討 ②仮説に関わる手立ての検討 ③①②を考慮した模擬授業の実施 
2 25 年 年 次 度	<ol style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討 <p style="text-align: center;"><浸透化></p>	<ol style="list-style-type: none"> ④研究内容に準じた「問題の工夫、個人思考の習慣づけ、板書、確実な習熟定着の時間の確保」を組み入れた授業研の実施 ⑤外部講師（算数科）の招へい <p>〔今求められる「問題解決の授業」とは？ 旭川近文小 武田先生〕</p> 	
3 26 年 年 次 度	<ol style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証 ③3年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度からの研究の検討 <p style="text-align: center;"><標準化></p>	<ol style="list-style-type: none"> ⑥ブロック研修(低中高)の充実 ・指導案検討 ・日常の授業における板書(写真)記録による交流 	

日常の実践に直結し、授業に生かせる研究 教師の授業力の上

(2) 風連中央小学校

【研究主題の設定】

自ら考え、学び合う子の育成

～算数の楽しさを実感する授業を目指して～

【設定理由】

本校では、昨年度まで「進んで思いを伝え合う子の育成」を研究主題とし、国語科の「話すこと・聞くこと」を軸として取り組んできた。

＜成果＞○国語科において話し手は自分の思いや考えを話したり、聞く側の聞く意識が高まったりするなどの成果が見られた。

＜課題＞▲国語科で培った伝え合う力を他教科・他領域で発展させていくことが必要である。

▲算数科において、「四則計算等の定着が不十分」、「考える力が不足している」などの課題がある。

以上の成果と課題、児童の実態をふまえ、算数科を窓口に子どもの「基礎・基本の定着」、「考える力の育成」を図る研修を進めることとした。

仮説

- ①学習過程の確立や個に応じた指導の工夫などにより基礎・基本を身に付けることができるであろう。
- ②展開の場面で算数的活動を取り入れた学習活動の工夫などにより、確かな考えで自力解決を行うことができるであろう。
- ③個の考えを交流する活動を工夫することで、相互のよさに気づき、自分の学びを広げたり深めたりすることができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②提案授業等を通して研究内容のイメージを共有化 ③授業交流 ④授業研究を通じた仮説の検証 ⑤1年次研究の成果と課題の分析、まとめ ⑥次年度の方向を検討 	<p>〈研究仮説1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程の確立 ・確実にたしかめ問題を行う授業 ・単元のねらいを明確化 ○個に応じた指導の工夫 ・お助けコーナーの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ①たしかめ問題まで行う授業 ②事前に指導計画の作成 ・一単元ごとのねらいの明確化 ・授業のねらいに沿った「たしかめ問題」の見直し、作成 ・指導体制の工夫
2 25 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①1年次の課題解決に向けた取組 ②授業研究(指導案検討、指導法など)を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討 	<p>(研究仮説2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習の充実 ・課題設定の工夫 ・ノートを活用 ○多様な算数的活動の工夫 ・学習形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ③「お助けコーナー」の設置 ・自力解決場面での支援  <p>解決方法の手助けを行う。(基礎・基本につながる考え方)</p>
3 26 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究(指導案検討、指導法など)を通じた仮説の検証 ③3年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度からの研究の検討 	<p>(研究仮説3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えを交流する学習活動の工夫 ・交流の場面と方法 ・個の学びを確実にする評価活動の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・たしかめ問題の場面での支援  <p>解き方・考え方などを再度確認し、基礎・基本の定着を目指す。</p>

この他、習熟度別学習(G学習)や週2回の朝活タイムを行い基礎・基本の定着を図っている。
【朝活タイム】…朝の会までの15分間、全校で計算領域の問題に取り組む。「さくらんぼ計算」「分数までのステップ」など、30種類×20枚プリントから順に自分のペースで取り組む。

(3) 名寄東中学校

【研究主題の設定】

伝え合う力を育成する学習指導
～基礎的・基本的な知識・技能の定着と言語活動を充実させる指導の工夫を通して～

【設定理由】

本校では、平成21年度から23年度にかけて「活用する力の育成」を目指し、全教職員が授業改善に取り組んできた。

＜成果＞○各教科で指導法の工夫・改善を行った。

○各教科において活用する場面を意図的に設定することにより、さらに深く考えていこうする意欲を高めることができた。

○活用する場면을継続的に設定することにより、習得した知識・技能をもとに考えをより深めたり、活用する力を高めたりすることができた。

＜課題＞▲基本的な知識や技能の定着、効果的な意見交流のあり方などが、課題としてあげられる。

以上の成果と課題をふまえ、今年度は基礎・基本の定着を図り、記録、要約、説明、論述などの言語活動を各教科で充実させることで、生徒の「伝え合う力」を育成できると考え、取り組んでいる。特に、今年度からは「基礎・基本の定着」と「言語活動の充実」に焦点をあて、3年次計画で研修を進めることとした。

仮説

- ①基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることで、自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝える自信をもつことができるであろう。
- ②教科の特性を生かした言語活動を充実させることで、「伝え合う力」を育成することができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②アンケート実施 ③アンケート結果交流を通しての、研究内容イメージ共有化 ④一人1回の公開授業、そのための指導案検討と事後研修 ⑤仮説の検証 ⑥研究の成果の分析、まとめ ⑦次年度の方向を検討 	<p style="text-align: center;">全員で公開授業 新たな気づき 明日は私も取り入れる</p> <p>＜基礎的・基本的な知識・技能の定着＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各教科で、基礎的な知識・技能を明確にする。 ②学習内容を確実に定着させるために、様々な方法を取り入れ、繰り返し振り返る（練習する）時間を確実に保障する。 ③学習内容の定着の状況を定期的に検証し、確実に定着させるための指導改善を行う。（小テスト・単元テスト・定期テスト・学力テストなどの実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ①一人1回の公開授業 ②公開授業事前指導案検討 ③公開授業事後研修 ④研究内容に準じた「基礎的・基本的な知識・技能の定着と言語活動を充実させる指導の工夫」を組み入れた研究授業の実施 <p>3年英語 関係代名詞・LESSON5 Today's News</p>
2 25 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討 	<p>伝え合う力を育成する学習指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ③学習内容の定着の状況を定期的に検証し、確実に定着させるための指導改善を行う。（小テスト・単元テスト・定期テスト・学力テストなどの実施） 	<p>1年家庭科 栄養素の特徴「健康と食生活」</p>
3 26 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討 	<p>伝え合う力を育成する学習指導の充実</p> <p>＜言語活動の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各教科で、言語活動を明確にする。 ②学習過程に言語活動の場面を設定し、その充実を図る。 ③テスト等で、教科に応じた言語の力を問う問題を出題し、分析を行い課題に応じた指導改善を行う。 	

(4) 校内研修班の3小中学校の校内研究計画概要

名寄西小学校	風連中学校	名寄小学校
<p>【研究主題】 確かな学力を身につけ、すすんで学び、表現することのできる子どもの育成～算数科での基礎・基本の定着を図り、思考力を高める授業の創造をめざして～</p>	<p>【研究主題】 確かな学力の定着を図る学習指導の工夫～学習指導の改善と言語活動の充実を通して～</p>	<p>【研究主題】 「かかわり合って、学びを創造する子どもの育成」～「例えば」から「だったら」で創る授業～</p>
<p>【領域】 算数</p>	<p>【領域】 各教科</p>	<p>【領域】 算数</p>
<p>【研究仮説】 ①導入や展開、終末において、指導計画の工夫や手立てを講じることにより、基礎基本を身に付けることができるであろう。 ②自力解決の場において、算数的活動を通して、一人一人が考えを持ち、それを練り合うことで、思考力が高まるであろう。 ③交流の場を工夫し、互いの良さを認め合い、積極的に他者と関わることで、表現力が高まるであろう。</p>	<p>【研究仮説】 ①各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫を行えば、確かな学力の育成を図ることができるだろう。 ②各教科において、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めていく指導法の工夫・改善を行えば、確かな学力の育成を図ることができるだろう。 ③「まとめる」の段階で、学習内容を確かめる場を設定したり、児童による評価活動を工夫したりすることで、自己の高まりを振り返り、達成感を感じられるだろう。</p>	<p>【研究仮説】 ①「つかむ」の段階で、学習展開を工夫することで、自ら課題や見通しをもちながら学び（「考える」の段階）に向かうことができるだろう。 ②「広げる・深める」の段階で、交流のしかたや話し合いを焦点化させるための工夫をすることで、伝え合い、考え合いながら学びを深められるだろう。 ③「まとめる」の段階で、学習内容を確かめる場を設定したり、児童による評価活動を工夫したりすることで、自己の高まりを振り返り、達成感を感じられるだろう。</p>
<p>【研究内容】 ①基礎・基本を定着させる手立ての工夫 ・指導過程の工夫 ・定着を図る工夫 ②思考力を高める指導方法の工夫 ・発問の工夫 ・一人学習の工夫 ・少人数指導の工夫 ③交流の場、評価の方法の工夫 ・交流の場の工夫 ・学習を振り返る場の工夫</p>	<p>【研究内容】 ○基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫（研究仮説1より） ○言語活動の充実と思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫・改善（研究仮説2より） 【平成24年度の重点的な研究内容】 ①1単位時間の授業の組み立て方（導入・まとめの工夫） ②評価テストの工夫（年間の指導計画の中でどう位置づけるか）←各教科で洗い出し ③宿題・家庭学習・スベ脳・補習の充実（内容・取り組み方の工夫）</p>	<p>【研究内容】 〈研究内容1〉 学習意欲を高める手立ての工夫 〈研究内容2〉 伝え合い、学びを深めていく手立ての工夫 〈研究内容3〉 学びの達成感を感じられる手立ての工夫</p>
<p>【研究計画】 ◇平成22年度（1年次） ・研究主題、研究内容の共通理解 ・授業実践 ・1年次のまとめと次年度の見通し ◇平成23年度（2年次） ・理論研究・授業実践・公開研 ・2年次のまとめと次年度の見通し ◇平成24年度（3年次） ・研究の修正および理論研究 ・授業実践 ・3年次のまとめと次年度の見通し ◇平成25年度（4年次） ・研究の修正および理論研究 ・授業実践・公開研 ・4年間の研究の成果と課題</p>	<p>【研究計画】 ◇平成24年度（1年次） ・研究主題、研究仮説、研究内容の設定 ・授業実践の交流 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫 ◇平成25年度（2年次） ・主題、仮説、内容の検討および焦点化 ・授業実践の交流 ・言語活動の充実 ◇平成26年度（3年次） ・仮説、研究内容の再検討とまとめ ・実践の検証 ・次年度への指針</p>	<p>【研究計画】 ◇平成23年度（構想と立案） ・学習展開の工夫 ・交流のしかたの工夫 ・学習内容を確かめる場の設定 ・児童による評価活動の工夫 ◇平成24年度（蓄積と検証） ・学習展開の工夫 ・交流のしかたの工夫 ・学習内容を確かめる場の設定 ・児童による評価活動の工夫 ◇平成25年度（検証と発展） ・学習展開の工夫 ・交流のしかたの工夫 ・話し合いを焦点化するための工夫 ・学習内容を確かめる場の設定</p>

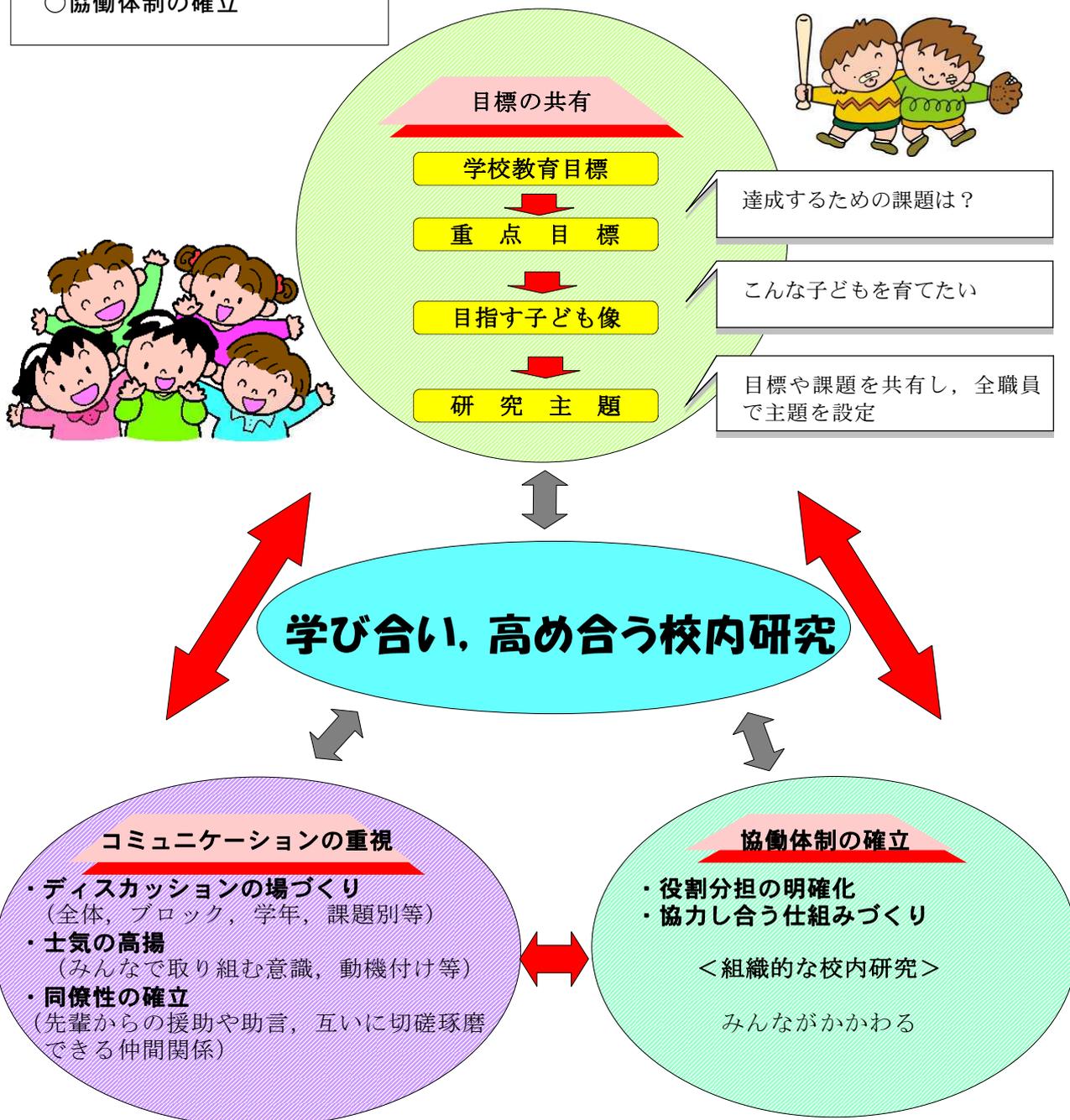
学び合い、高め合う校内研究

学び合い、高め合う校内研究とするためには教師一人一人が目指す目標を共有し、お互いにコミュニケーションをとりながら、組織体として協働体制を確立するといった「組織マネジメント」の機能を生かすことが大切です。

組織マネジメントの機能とは

- 目標の共有
- コミュニケーションの重視
- 協働体制の確立

学校における組織マネジメントとは、学校内外の能力・資源を開発・活用し、学校にかかわる人たちのニーズに適応させながら学校の教育目標を達成していく過程(活動)を指します。



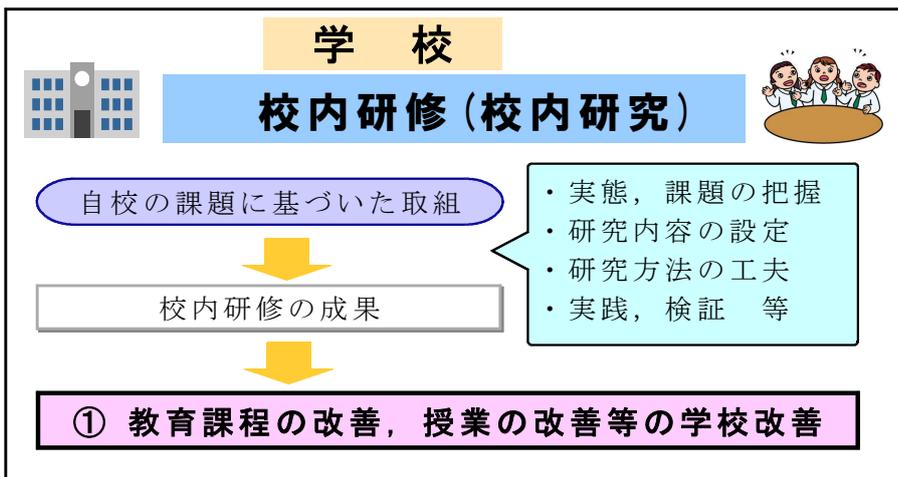
【参考】北海道教育庁上川教育局 平成18年度「ステップアップ・プロジェクト上川」指導資料「校内研究の充実のために」

これからの校内研修（校内研究）

自校の課題を解決し、子どもの望ましい変容を追求する上で校内研修は学校の要といえます。今までの校内研修は、学校内だけのものとして行われる傾向にありました。しかし、教職員の入れ替わりにより、若い教職員が増加する今後においては、校内研修の意義を共通理解するとともに学校改善に資する校内研修、学校間連携等による開かれた校内研修が求められます。

＜校内研修に求められること＞

- ① 教育課程の改善，授業の改善等につながる校内研修
- ② 学校間の交流・連携により，学校の活性化につながる校内研修
- ③ 保護者・地域住民の学校理解，相互協力につながる校内研修



子どもの変容・成長

学校力の向上

